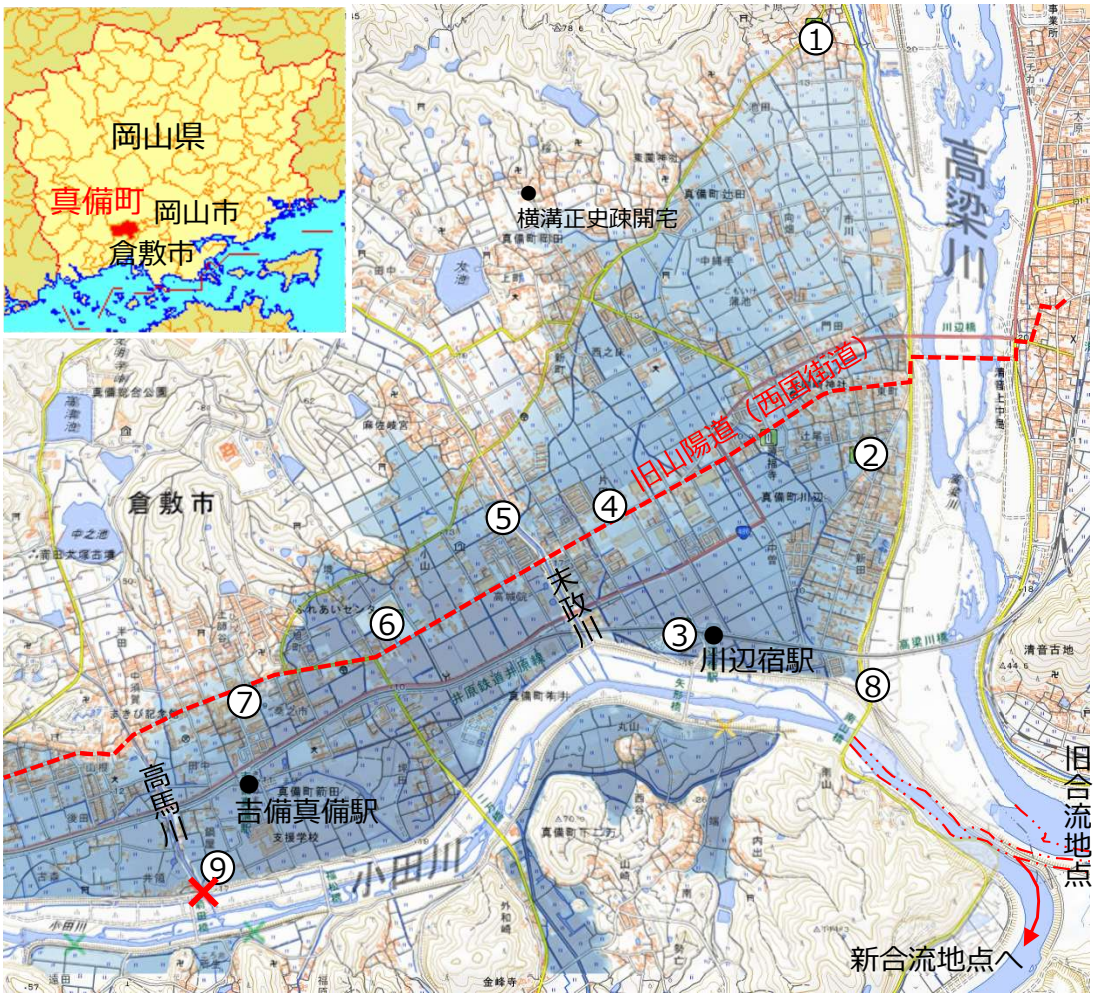
倉敷市真備町洪水自然災害伝承碑訪問

25/5/4
平芝自治区　井上

訪問日：令和7年4月28日（月）11:30～14:00
平成30年（2018）7月6日の西日本豪雨の影響で大きな洪水被害が発生した倉敷市真備町を訪問し、現地現物で真備町地内に建立された自然災害伝承碑や地域の現況を見てきた。

1．豪雨水没地域と災害伝承碑（国土地理院自然災害伝承碑HPより）



①下原公会堂

②倉敷市真備公民館川辺分館

③倉敷市真備健康福祉館（まびいきいきプラザ）

④まび記念病院

⑤下有井ふれあい館

⑥マービーふれあいセンター

⑦倉敷市真備支所

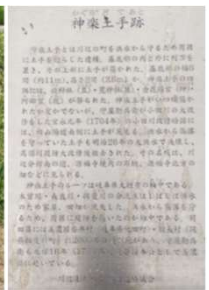
⑧小田川合流点付替え事業竣工記念碑

⑨まびふれあい公園

①下原公会堂（総社市下原867）

建立：2021年
伝承内容：平成30年(2018)7月4日から降り続いた豪雨により高梁川が増水、支流の新本川が氾濫した。地区内にあるアルミ工場の溶解炉が冠水し、6日23時35分に爆発、地区内の全家屋が被災した。また、同日夜半に小田川及び支流の堤防が決壊、翌7日100世帯以上が床上浸水し、当地では1.52mの浸水位となった。洪水と爆発という二重の災害の中、地区内では犠牲者を一人も出すことなく全員が避難した。(国土地理院自然災害伝承碑説明文より(以下同))

②倉敷市真備公民館川辺分館（倉敷市真備町川辺714）



建立：2021年
伝承内容：平成30年(2018)7月5日から7日に降り続いた記録的な大雨により末政川の堤防が決壊し、川辺地区1734世帯のほぼ全ての家が浸水被害を受け、住民6名の尊い命が失われた。浸水位は、川辺地区全体でおおむね3.5mに達し、明治26年(1893)以来の大災害となった。

＜神楽土手跡＞
分館南側に、大垣の輪中をルーツとした神楽土手跡が残る。江戸時代に築かれたと考えられているが、明治26年の大洪水で決壊、高梁川堤防の大改修後に撤去されたとのこと。

③倉敷市真備健康福祉館（まびいきいきプラザ）（倉敷市真備町川辺2271）

建立：2022年
伝承内容：平成30年(2018)7月5日から7日にかけ、西日本を中心に記録的な大雨となった。ここ真備地区では、小田川・末政川・高馬川・真谷川の八箇所で堤防が決壊し、真備地区の約3割、1,200ヘクタールが浸水、その深さは5mを超えた。この災害により、70名を超える尊い命が失われた。

④まび記念病院（倉敷市真備町川辺2000-1）

←洪水により水没。その際の3.3m高さの浸水ラインをロビーの柱に表示

浸水したまび記念病院→小田川より約700m北。19年2月病院業務を再開（FNNプライムオンライン）

⑤下有井ふれあい館（倉敷市真備町有井710）

2023年10月に新築された
下有井ふれあい館（浸水深3.7m）

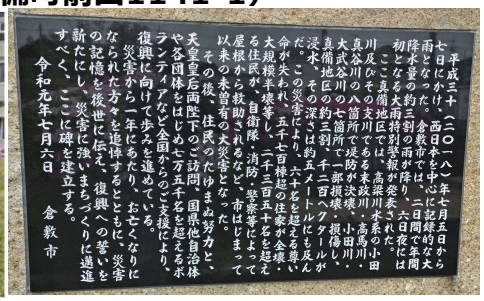
右は明治13年(1880)7月
1日洪水時の溺死群霊之墓

建立：2023年
伝承内容：平成30年(2018)7月5日から7日にかけ、記録的な大雨となり、6日夜には大雨特別警報が発令された。真備町有井地区では、小田川支流の末政川の堤防が東西3か所で決壊し、濁流が押し寄せて地区住民の8割を超える800世帯が浸水し、その深さは、二階の屋根まで達し、住民15名の尊い命が失われた。災害から5年を迎え、亡くなられた方々に哀悼の誠をささげるとともに、災害の記憶を必ず伝えるべく、碑を建立する。

⑥マービーふれあいセンター（倉敷市真備町箭田40-1）

建立：2022年
伝承内容：平成30年(2018)7月5日から7日にかけ、西日本を中心に記録的な大雨となった。ここ真備地区では、小田川・末政川・高馬川・真谷川の八箇所で堤防が決壊し、真備地区の約3割、1,200ヘクタールが浸水、その深さは5mを超えた。この災害により、70名を超える尊い命が失われた。

⑦倉敷市真備支所（倉敷市真備町箭田1141-1）



建立：2022年
伝承内容：平成30年(2018)7月5日から7日に降り続いた豪雨により、小田川・末政川・高馬川・真谷川の8箇所で堤防が決壊、小田川・大武谷川の7箇所で一部損壊・損傷し、真備地区の約三割、1,200ヘクタールが浸水する大洪水となった。5,700棟超の住家が全壊・大規模半壊等し、60名を超える命が奪われた。

⑧小田川合流点付替え事業竣工記念碑（倉敷市真備町川辺1541-1）

建立：2024年　伝承内容：小田川は洪水時に高梁川の水位が高くなったときに起こる背水現象で過去に何度も浸水被害が発生していた。平成30年(2018)7月5日から7日にかけての西日本豪雨では、真備地区で堤防決壊や越水等により、甚大な被害が発生した。碑は沿川住民の悲願であった、高梁川と小田川の合流地点の付替え工事の竣工を記念して建立された。

⑨まびふれあい公園（倉敷市真備町箭田4629-1）

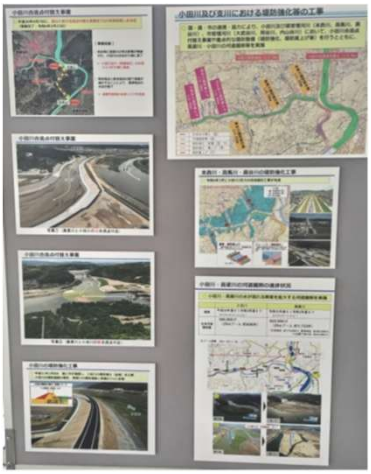
災害からの復興のシンボル、防災や交流の拠点として、堤防が決壊した小田川と高馬川の合流部に隣接する土地に2024年7月開園

まびふれあい公園全景（山陽新聞デジタル24年07月03日 より）

公園全体案内図

多目的室や備蓄倉庫を備える施設「竹のゲート」は隈研吾氏設計

公園整備の記録



堤防強化工事の記録

災害からの復興の記録

防災用品展示

小田川河川敷のじゆうひろば（右は高馬川）

小田川と高馬川の合流地点（決壊した堤防付近）

まびふれあい公園

所在地：岡山県倉敷市真備町前田4629-1

【アクセス】

◎公共交通でお越しの方
井原鉄道「吉備真備駅」から徒歩約10分

◎お車でお越しの方
山陽自動車道「玉島ＩＣ」から約15分

※駐車場：145台（北側18台/南側85台/河川敷42台）

※小田川の堤防道路はサイクリングロードに登録されているため、自転車にご注意ください。

※バスの場合は、倉敷まきび支援学校東側を通り、小田川の堤防道路からお越しください。なお、バスの乗り入れは可能ですが、専用駐車場はありませんので、ご留意ください。

公園を利用される皆様へ

◎公園はいつでも利用できますが、「まなびのへや」は、9:00～17:00まで利用できます。

◎小田川の水かさが増してきたときは、すぐに河川敷から離れましょう。

◎「じゆうひろば」を除き、公園内の火気の使用は厳禁です。

◎「じゆうひろば」で火気を使用した後は、火の不始末に十分注意しましょう。

◎「スポーツひろば」は、ボールを使うことができますが、スパイクでの立ち入りなど、芝生を傷める行為は禁止です。

◎「あそびのひろば」の芝すべり台で遊ぶときは、備え付けのソリを使用してください。

◎「じゃぶじゃぶひろば」の水は、用水路の水を利用しているため、冬場に水がない場合があります。

◎「じゃぶじゃぶひろば」の水は、飲み水ではありませんので、ご注意ください。

◎公園内にゴミ箱はありません。ゴミは持ち帰りましょう。

◎公園内の樹木や草花を大切にしましょう。

◎公園利用者間のトラブル等については、施設管理者は一切の責任を負いません。

◎他の利用者や周辺住民の迷惑にならないように、ルールやマナーを守り、お互いに譲り合って楽しくご利用ください。

◎まびふれあい公園で、イベント等の開催をご検討の場合は、公園緑地課又は真備支所建設課まで、ご相談ください。

「まなびのへや」について

まなびのへや（約160㎡）は、申請による有料利用予約（貸切）ができます。
詳しくは問い合わせ窓口まで。

◎料金：1,090円/h
◎ポータブルアンプ：660円/回
◎プロジェクター　：995円/回
◎スクリーン　　：335円/回

まびふれあい公園整備事業の歩み

平成30年７月：平成30年７月豪雨災害

平成31年３月：真備地区復興計画を策定
令和２年３月：復興防災公園(仮称)基本計画を策定
令和３年11月：公園整備事業に着手

令和５年６月：まびふれあい公園の名称を決定

令和６年５月：天皇皇后両陛下が御視察

令和６年７月：まびふれあい公園の開園

倉敷市 Kurashiki City

【公園の広さ】
◎種　　別：地区公園
◎面　　積：公園部分　約2.8ha
　　河川敷部分　約1.7ha
　　合　　計　約4.5ha

【建物（竹のゲート）】
◎構　　造：木造・鉄筋コンクリート造
　　平家建
◎建築面積：約500㎡

マービーちゃん

【問合せ窓口】
◎公園事務所（9:00～17:00）
　電　話：086-698-0707
◎公園緑地課（8:30～17:15）
　所在地：岡山県倉敷市西中新田640
　電　話：086-426-3495
◎真備支所建設課（8:30～17:15）
　所在地：岡山県倉敷市真備町前田1141-1
　電　話：086-698-8108

公園緑地課　サイクリングコース　Free WiFi　SSID:mabifureai_wifi PASS:mabifureai　みらいを、みんなで SDGs 倉敷市・高梁川流域

ようこそ！まびふれあい公園へ

この公園は、平成３０年７月豪雨災害からの復興のシンボルとして、地域の皆様のご協力をいただきながら整備した公園です。

平常時には、芝生広場や河川敷の広場のほか、桜並木や遊具などを整備した日常の憩いの場としての利用や、防災教育や様々なイベントの会場、サイクリングコースの拠点など、真備のにぎわい創出や魅力発信の場となる公園です。

災害時には、一時的な避難の場として約400台の車による避難やヘリポートとしても利用できるほか、防災備蓄倉庫や様々な防災施設も備えています。

子供から大人まで人々がふれあい、小田川や自然とふれあい、心と心がふれあう公園として、是非ご来園、ご活用ください。

災害に備えた防災施設

「平常時と災害時の両面で活用でき、地域の発展にもつながる公園」

① じゆうひろば（河川敷）
② ソーラーＷｉ-Ｆｉ
③ ソーラー照明
④ マンホールトイレ
⑤ かまどベンチ
⑥ じゃぶじゃぶひろば
⑦ あそびのひろば
⑧ 竹のゲート
⑨ 防災備蓄倉庫
⑩ まなびのへや
⑪ サイクリング施設

2．所 感

・水害発生後約７年たっている今、川辺地内では新築の家が立ち並び、復興が進んでいることを実感した

・ただ、空き地（更地）も多く、災害前までの状況にはまだまだ戻っていないと感じた

・一方で、建築中の家も何軒か見られ、また、倉敷市支所別世帯数の推移を見ても世帯数が年を追うごとに増加し、現在が復興さなかであるとも感じられた

・現在では災害の爪痕は微塵も感じられないものの、被災された方々は、被災時、そして被災後の復旧・復興と、長期間、筆舌に尽くしがたい苦労をされてきたのだろうと推察する

・右表のように真備地区では、明治以降だけでも水害が頻発している。そのことを考えると、「過去の災害に基づいた災害が起こらないような事前の対応」が行えなかったのかと考える

明治以降の真備の水害

1893年(明治29)	高梁川、小田川堤防が決壊
1920年(大正9)	小田川堤防が決壊
1934年(昭和9)	室戸台風で高梁川が洪水。真谷川堤防決壊
1945年(昭和20)	小田川、真谷川堤防が決壊
1972年(昭和47)	集中豪雨で高梁川が逆流
1976年(昭和51)	台風17号で小田川左岸堤防漏水

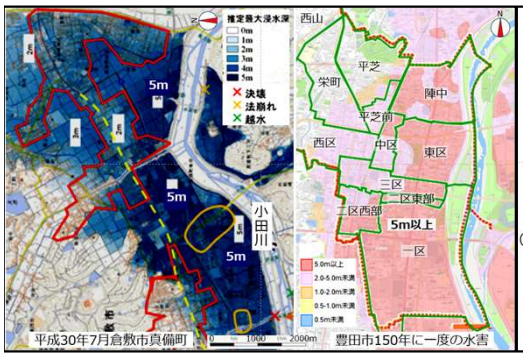
防災ニッポン（https://www.bosai.yomiuri.co.jp/）より

3．提 言：真備町洪水被害と豊田市150年に一度の水害についての一考察

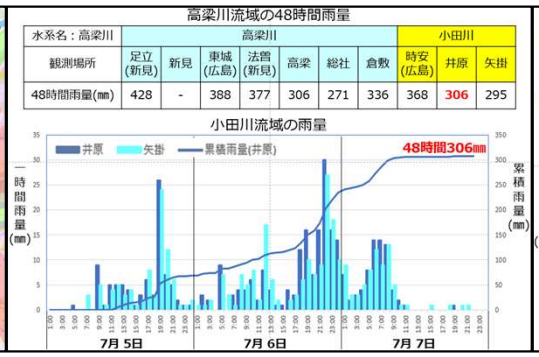
・豊田市は、平成27年の水防法改正に基づき、それまでの150年に一度から、1000年に一回程度の確率で発生する規模の大雨を想定したハザードマップを作成、令和3年3月9日に公表した

・しかしながら、平成30年7月の西日本豪雨、令和5年6月の台風2号の影響による東三河南部の線状降水帯による河川氾濫などの例をみると、1000年に一度と言わず、150年に一度の規模の水害が起こる頻度がより多くなってくるのではと懸念される

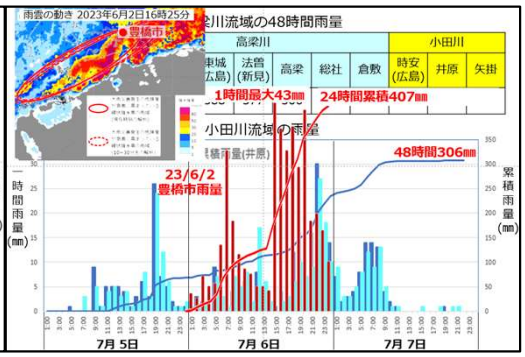
・そこで、西日本豪雨による倉敷市真備町の被害状況と豊田市150年に一度の水害ハザードマップを比較することにより、万が一豊田市で150年に一度の水害が発生した場合の被害を想定する



(左)真備町の水害状況：山陽道から南側は5mの浸水(右)豊田市150年に一度の水害シミュレーション　小田川が高梁川の支流であることを除けば、両者は類似している



平成30年7月5日から7日にかけての小田川流域の雨量グラフ　48時間雨量が306mm



左記小田川流域のグラフに令和5年6月2日の豊橋市雨量グラフを重ねたもの　1時間最大43mm、24時間雨量407mmといずれも小田川流域のものをはるかに超えている

(上)水没直後の家屋の状況 5mの水深ではほぼ2階まで水没(下) 消防団や自衛隊により245名、一般市民のボートにより200名を救出

(上)避難所での避難の様子 (下)水が引いた後、流された車やドラム缶、家具など

(左)道路に堆積した泥の撤去 (右)家庭内のごみを片付ける住民と災害ごみの仮集積場

(左)泥が乾燥した後の粉塵がまう様子と自衛隊によるごみ撤去(右) 床下の清掃・消毒を行うボランティア

・令和5年6月は豊橋市で洪水被害が起こったが、線状降水帯が20～30km西に寄っていれば、豊田市が同様の被害を受けていたかもしれない

・一旦被害を受けた場合、その後の復旧・復興は真備町の例を見ても非常に大変なことが分かる

・豊田市の防災計画等を見ても、右表の通りいずれの計画・ビジョンでも「市民の命と財産を守る」とうたっており、命は勿論のこと、財産を守るための事前対策が必要と考える

「市民(国民)の生命と財産を守る」の記載箇所
・第2次豊田市災害対策推進計画 R7年3月 P2
・豊田市地域防災計画 R5年度改訂版 R6年1月 P1
・豊田市総合雨水対策マスタープラン R5年5月 P25, P31
・豊田市下水道ビジョン R2年3月 P24
・豊田市国土強靭化地域計画 R2年3月 P238